

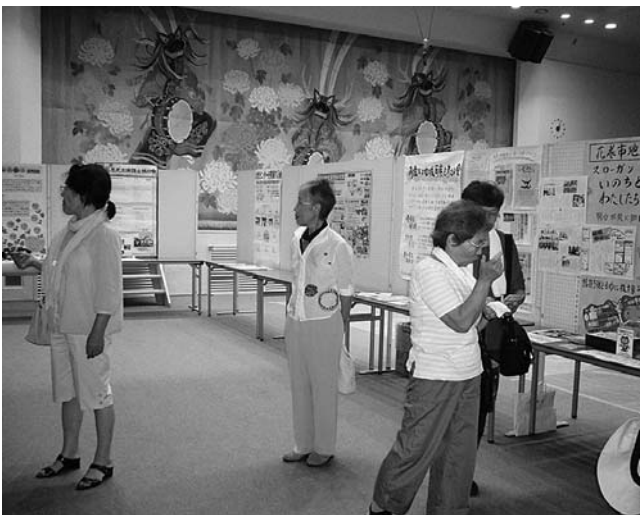
ができるかと判断して対応しているものと思うが、低価格入札の問題点と予定価格の妥当性についてどのように考えているのか伺う。

A 工事の適正な品質の確保が必要であるとともに工事原価の確保されない契約を結んではならないという大前提がある。低入札は市全体の経済産業にとっていい状況ではないと考えているので適正な調査制度を運用して慎重に対応していく。ま

た、低入札となったものについては、工事の完成検査の段階において特に慎重に施工管理、品質管理等をチェックしている。設計については適正に積算をしていると思うているがどのようになれば低入札が防げるかさまざま検討している。

ワンストップにならないと思うが

Q 花巻市のサイトから



公共施設は、各種イベント等に利用されています(文化会館中ホール)

予約後、施設において利用申請書を記入することは、ワンストップになっているのか伺う。

学童クラブ指導員の待遇の内容は

Q 市内にある学童クラブの指導員労働条件に格差が大きくある。大事な子どもを預かるクラブにおいて、市でも基準を示す必要があると思うがどうか。

A 昨年6月の調査では市内各学童クラブごとにかんがりの開きがあった。この背景には、クラブの設立時点での規模や人数、施設の大きさなど条件が違っていることや、地域の特性を生かした形で立ち上げたなどの歴史的な



乳幼児のいる家庭を訪問して相談に答えている保健師

経緯があり、待遇に開きがあった。今後、すべてを統一することは難しい面もあるが、学童クラブの連絡協議会あるいは運営協議会などとの協議を重ねながら調整をしていく。

妊婦健診の実施状況の分析は

Q 定期的な妊婦の健診が実施されていると思うが、未受診のまま出産に入るなどの状況がないの

か、健診の実態についてどうなっているか。

A 妊婦健診は平成20年から14回ということで実施してきたが、実際には80%程度の実績と思われる。残り20%はそれほど回数が必要ないとか、転入や転出で実際に健診を受けないなどの要因が背景にある。以前との実績の比較では、ほぼ同じような推移であることから、妊婦健診など母子の健診については適切に行われていると考えている。

子どもの医療費拡充についての検討は

Q 子どもの医療費については、県内では小中高生に拡充する自治体が増えている。市としての検討がされているのであれば経過について伺う。

A 昨年に比べ6市町村から14市町村と増えているのは承知しているが、概算で6300万円ほどかかり県事業の中で市の単独事業と位置づけている。県で統一的な形で実施している事情もあり、先行している14市町村には追いついていない感覚もある。

賢治の土壌診断事業の結果は

Q 昨年、市内各地の水田の土壌を採取したはずだが、その結果はどうなっているのか。

A 市内の1100箇所の水田の土壌からサンプルを採取し、これを花巻農協を通して分析した。

今年の3月に診断結果が出たが、農協の各支店に地図と結果を提示し、これからの施肥設計などに役立てることにしている。このことから、実際には来年の実績に反映してくるものと思う。診断結果としては、リン酸やカリ過剰の水田が多くみられることや、水田によってバラつきがみられることから、各土壌にあった指導をしていく。

各集落営農組織の実態と課題は

Q 市内の集落営農の組織化が鈍っているように思うが、なぜ進まないのか。また、各組織の決算状況はどうか。

A 集落営農の組織化は農業振興に大切な部分であり、今後も組織化にあたっては、担い手推進協議会なりトータルアドバイザーが地元に入って、相談機能を果たしながら推進していく。本年5月に実施した経営実態調査については、6割程度



将来に不安を抱えながら進むコメの収穫作業

米価下落対策について国への要望を

Q 生産者米価は需給関係だけで決まるわけではないが、過剰であることと戸別所得補償が足かせ

組織が昨年度と比較して良かったと回答している。少しずつではあるが経営内容が良くなってきたという状況であり、今後も低コスト化に向けて指導していきたい。

となつて大きな下落となっている。対策を国に要望すべきではないか。

A 戸別所得補償により米価が下がることの防止については、国から適切な取引の発生防止という通知が出ている。米価の下落という事態を受け、補償の早期支払いは必要である。また、緊急対策としての過剰米買い入れについては、生産調整をしていない人との関係もあることから、もう少し慎重に状況を見守りたい。

総合計画における花巻図書館建設予定は

Q いまの時代としては狭くなった花巻図書館の建設について、総合計画に基づいた動きが必要と考えるが現在の話し合いの状況はどのようになっているのか伺う。

A いまの4館体制の中で中央図書館を核にとの意見や人口規模と蔵書数、狭あい化、住民への情報提供の拡大等の課題を踏まえながら望ましい図書館はどうあるべきか、先進事例を参考にしながら建設に向けて検討する。

繰上償還と借換債の発行は

Q 経済対策が行われたことにより、地方債の発行を抑制することができている。よって償還の繰り上げなどが必要かと思うが繰上償還と借換債の発行はどのようになっているのか伺う。

A 当市では、19年度か



英語と日本語で絵本の読み聞かせ(「英語で遊ぼう～絵本の世界～」 花巻図書館)

ら21年度までの3年間にわたって実質公債費比率が18%を超えていたので繰上償還を3年間行ってきた。21年度は償還のため1億6830万円を借換債として発行し3277万8000円の利子が軽減された。

総合計画最終年度の公債費残高の実現は

Q 総合計画最終年度の平成27年度末で、公債費

残高を525億9000万円ほどに縮減する予定になっているが、現在の600億円ほどを平成27年度までに計画どおり削減できるのか伺う。

A 現在の実質公債費比率19.2%が、23年度末には18%を切って17%台になり、その後も実質公債費率が下がるような計画になっているので、このペースだと、27年度末残高は525億円ほどの目標が達成可能とみている。